
暗界

有沙姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暗界

【Nコード】

N6162B

【作者名】

有沙姫

【あらすじ】

同時に存在するはずのない世界で出会い、戦った冒険物語

プロローグ

ーばあちゃんが死んだー

昔から、家族の中ではあちゃんだけが俺の味方だった。ばあちゃんだけが、俺の理解者だった。

死ぬ直前、俺はばあちゃんから小さな木箱を貰った。

「この中に入っているものは、いつかならず佑太を助けてくれる。大切に肌身離さず持っているんだよ。これから先、幾多の困難に出くわしても、決して諦めてはいけないよ。どうしようもなくなったら、ばあちゃんを思い出すんだよ。ばあちゃんはいつでも、傍にっているからね」

俺はその言葉の意味を理解できず、刻々と命の火が消えていくばあちゃんをみながら泣くことしか出来なかった。

ばあちゃんは、俺の顔を見ながら、静かに微笑みながら、その火を消した。

母はエリート会社員の父と有名大学生の姉が自慢だ。お荷物だったばあちゃんが死んでから、あからさまに機嫌がよい。まあ、俺は期待されてない訳で、ただ、母の機嫌を損ねないように日々生活するしかなかった。

ばあちゃんが死んでから更に息苦しくなった家に居たくない俺は、

塾に逃げ毎日入り浸った。

その日も、夜10時過ぎてから、塾を出て、家に帰る途中だった。塾のテストの点が思うように取れず、足が重たかった。

ばあちゃんのことを思うと今でも泣けてくる。俺は石をポケットから取り出した。なんの変哲もない、そこらへんにありそうなただの石。それを握り締めた。がんばるしかない。そう誓い、また石を戻し、歩き出す。

これから始まる出来事をあざ笑うかのようなきれいな満月の夜だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6162b/>

暗界

2010年10月11日02時26分発行